

ぼくの だいすきなパパ

B. ガリヤフキン作

宮川やすえ訳



岩崎少年文庫 1

ぼくのだいすきなパパ

B. ガリヤフキン作

宮川やすえ訳

NDC 983 東京 岩崎書店 1979 200p. 21cm

岩崎少年文庫 1

ぼくのだいすきなパパ

一九七一年三月三十一日 第一刷発行
一九七九年二月二十八日 第七刷発行

訳者 宮川やすえ

画家 岩淵慶造

発行者 森山甲雄

印刷所 KMS/清水印刷紙工

製本所 河上製本

発行所 株式会社 岩崎書店

東京都文京区水道二丁目九番二号

〒一一二 電話 (812) 9131

振替 東京 七一九六八二二

©宮川やすえ 一九七一

(分)8397(製)500171(出)0360



日本のみなさんへ



ソビエトの子どもたちは、よくこうたずねます——ぼくたちの一生が、そのまま物語になるかしら？——

そうだな。そうとばかりはいえないな。でもひとりひとりの子どもの一生の間には、いろいろなことがあつたり、思い出の深いエピソードがたくさんあるものです。私は、この本を書きながら、いつも、私のパパ、私がいすきだったパパのことを思い出していました。もし、そうでなかったら、きっとなんにも書くことができなかったでしょう。私のパパは、ほんとうに、私の家の者や、まわりの人たちを愛していました。

そりや、子どもは、誰でもパパやママがだいすきです。日本の子どもたちでもそうでしょう。私のパパは、私にとっていつでも世界一やさしくって、力が強くって、まじめな人でした。戦争が始まって、ドイツがソビエトへ攻めてきたとき、

私のパパは、ドイツ軍と戦うために、戦争へ行きました。そして、勝ってぶじに帰ってきました。

でも、ソビエトの兵隊^{へいたい}さんが、ぜんぶ家へ帰ってきたのではありません。私は、パパが帰ってこなかった子どもたちのことを、思い出しながら、この話を書きました。

私は、一度も日本へ行ったことはありませんが、日本のすばらしい絵や詩をよく知っています。と同時に、原爆が二つも落ちて、あつというまに町を焼き払ったことも知っています。

ああ！二度と戦争などしてはいけません。どうか、『ぼくのだいすきなパパ』に出てくるパーチャのことをよくおぼえていてくださいね。

一九七一年二月二〇日

B・ガリヤフキン

この本を読むまえに

○ その頃の世界のようす

今からちょうど三〇年前、一九四一年の六月二十二日に、ヒットラー総統の命令を受けたドイツ軍は、だまって国境を越えると、ソビエトのウクライナ地方に攻めこんできました。その頃のソビエトの首相スターリンでさえ、すぐには本当だと思わなかったそうです。

それより二年前の一九三九年八月二十三日、ドイツとソビエトとは戦争をしないという条約（独ソ不可侵条約）を結んだばかりだったからです。

その頃のことを、ペーチャのパパ、ママとリバプールのじいさんは、夜、紅茶を飲みながらこう話しています。

『ドイツと仲よくして、いつまでも平和が続くと思っているのかい？』

『平和は、平和よ』

ペーチャのパパの考えは、あたっていました。一九三九年九月一日朝早く、ポーランドに攻めこんだドイツ軍は、一カ月でポーランドを占領してしまうと、今

度は約束を破ってソビエトに攻めてきたのです。

その頃、ドイツの国を思うままに動かしていたのは、ナチス党の頭、ヒットラー総統です。ナチスは、国のためには人びとの自由を許さないと、いう全体主義で、民主主義には大反対でした。そして、ドイツ人は世界一すぐれた民族だから、ヨーロッパ中をドイツのものにして、ほかの民族を奴隷のように働かせようと思っていました。今のドイツには、こんな考えの人はいません。

一九〇〇年の初め頃に生まれたペーチャのパパは、子どもの頃、家が貧しかったので、早くから船の見習水夫をして働いていました。が、ロシアの国の中で、金持ちの味方の白軍と、貧しい者が集まってつくった赤軍とに別れて戦争がはじまると、モスクワ生れのパパは、まだ若いのに赤軍のコザック騎兵隊に入ってもらいたい働きをします。

一九一七年、国内戦争が終わって、働く人たちの国、ソビエトにかわると、人びとは自分のしたい勉強をして、自分の好きな仕事につけるようになりました。こうして、ペーチャのパパは音楽家になり、昔の船員仲間としあわせにバクーで暮していました。カスピの海のあるバクーには、その地方の人たちだけで

なく、遠い国やいろいろな地方から海を渡ってきた人たちも住んでいるのです。

だが、ペーチャの家の平和も、戦争がはじまったとたんに、砂の城のようにざらざらとこわれてしまいました。

この戦争を、第二次世界大戦といいますが、一九四五年五月七日にはドイツ、八月十五日に日本が、アメリカ、イギリス、フランス、ソビエトの連合軍に無条件降伏をするまで、世界中が、敵と味方にわかれて戦ったのです。しかしこの戦いでは、勝った国も敗けた国もひどい目にありました。たくさんの家や、財産が灰になり、多くの人が死んだのです。一般の市民で死んだ人は、二千万人から三千万人。軍人は、千六百万人（ドイツ三二五万人、ソビエト七百万、千三百六十万、日本一二〇万、アメリカ二六万、イギリス三三万、フランス三四万、イタリア三三万）といわれています。家も両親もなくなって、乞食になった子ども数えきれません。日本本土でも、戦争がはげしくなると、空襲におびえ、着るものも食べるものもなくなって、ペーチャの家のように、家の品物を売って暮した人が多いのです。

この物語は、ちょうどその第二次世界大戦の始まる前夜、一九四一年の春からはじまります。

もくじ

日本のみなさんへ
この本を読むまえに



16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
さよなら パパ！…… 109	家へ帰る…… 104	たいへん小さい章 (2)…… 103	たいへん小さい章 (1)…… 103	パパとアリョーシャ…… 95	海の家で…… 91	海の家に行く…… 84	リバプールおじさんとパパ…… 77	オリンピアードおばさんと、 ゴーシャおじさん…… 66	ぼくのパパは、作曲をしている…… 60	日曜日…… 49	パパは向うで、ぼくたちはここ…… 41	ぼくのパパは、指揮をとりに行く…… 34	ベランダ…… 31	となりの人…… 22	ぼくは、二年生…… 10



あとがき	198
31 五年たって	196
30 去年のお正月	193
29 もみの木まつり	185
28 ゴーシャおじさんに、道であう	180
27	173
26 オリンピアードおばさんとママ	168
25 ベートーベン、バッハ、モーツアルト	168
24 屋上で	157
23 さよなら、アリーおじさん	153
22 二つの手紙	147
21 落第ぼうず	144
20 新しい先生	140
19 映画館で	134
18 帰り道	126
17 パパにあう	114
	112

訳者紹介

宮川やすえ

岡山県津山市生れ。拓殖大学専任講師

「でしやばりっこ」シヨロホフ(旺文社刊)、

「トルストイどうわえほん」トルストイ(実

日刊)、「もえる石」ア・ガイダール(新日本

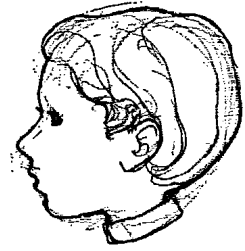
出版刊)

B・ガリヤフキン 作

宮川やすえ 訳

ぼくの だい すき な パ パ

岩崎少年文庫 1



1 ぼくは、二年生

今、夏休みだ。

ひるごはんなんかちっとも食べたくない。ぼく、アパートの庭で遊んでると、おもしろくてたまらないんだ！ 毎日、朝から晩まで遊んでいたいなあ、ごはんなんか、いちども食べないで……。ぼく、キャベツのはいったボルシチ・スープがきらい。おかゆもきらい。カツレツもきらい。すきなのは……つと、あんずね！ あんずっておいしいよね。

ほら、また、ママがよんでいる。

「ごはんですよ！ 帰っていらっしやあい」

やんなっちゃうな。みーなほうりだして、帰らなくちゃならないんだ。砂でつくった家も、友だちのライス、ラシム、ラミス、ラヒスも、なにかもほっといてさ。ライス、ラシム、ラミス、ラヒスは、兄弟でみようじはイズマイロフ。

弟のボーバは、スープがだいすきだ。ボーバは、にこにこしてスープを飲んでいるけど、ぼくは、しかめっつら。ボーバのやつ、いつもうれしそうに、さじで

Meigo.







あるよ。今、箱にしまつてあるけど、長くて、重くて、持ちあげられやしない。パパがいまでも兵隊さんだったらなあ！ バンドにピストルとサーベルをつつてコザック帽子に星の徽章をつけて、パカパカ馬にまたがっていくパパのそばに、ぼくくつついて歩くんだ！ そしたら、みんなうらやましがるぞ。『おい、みろよ。ペーチャのパパってかっこいいぞ』って。でも、パパはソナチネがすきなんだ。ちえ！ ぼくは、きらいだよ。砂場で家をつくったり、ライスたちと遊んでいるほうが、よっぽどおもしろい。ソナチネなんか、くそくらえ。

ぼくは、けいこの途中で、しょっちゅうたずねる。

「もう、いいでしょう」

「だめよ。もつとつづけなさい」

と、ママ。

「もつとひくんだよ、もつと」

と、パパがいう。ぼくが、ピアノをひいているのに、ボーバは床にすわって、ここにこしている。手にもっているねじまき自動車から、あれ！ 車をもぎとった。あれ！ 車だけ、ぎしぎし床のうえをころがしだした。ボーバは、いいな。だれからも、ピアノのおけいこをしなさいって、いわれないんだもの。だから、